

第2回 安威川ダム周辺整備検討委員会

資料2：基本理念とゾーニング

目次

1．基本理念の検討	1
2．安威川ダム周辺の空間の性格設定	4
3．ゾーニング	7

平成19年10月22日

大阪府・茨木市

1. 基本理念の検討

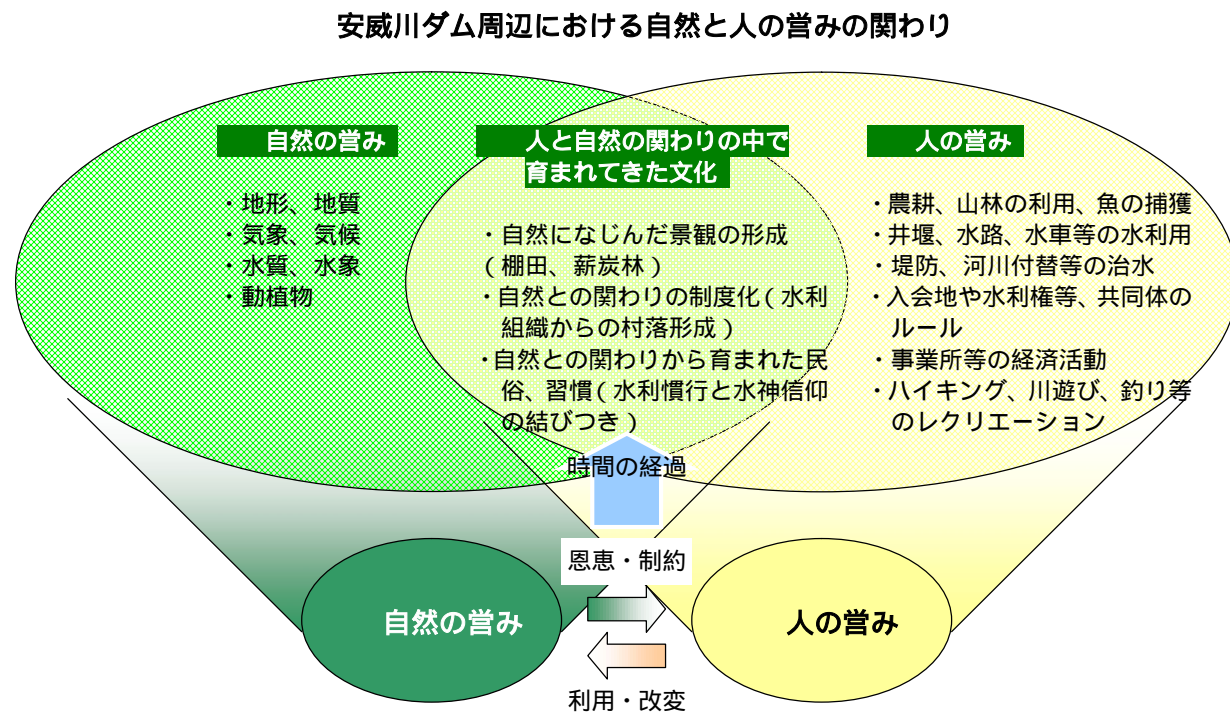
(1) 安威川ダム周辺の目指すべき方向 (第1回のまとめ)

安威川ダム周辺は、古来より自然と人々が共生する空間として利用されてきた。

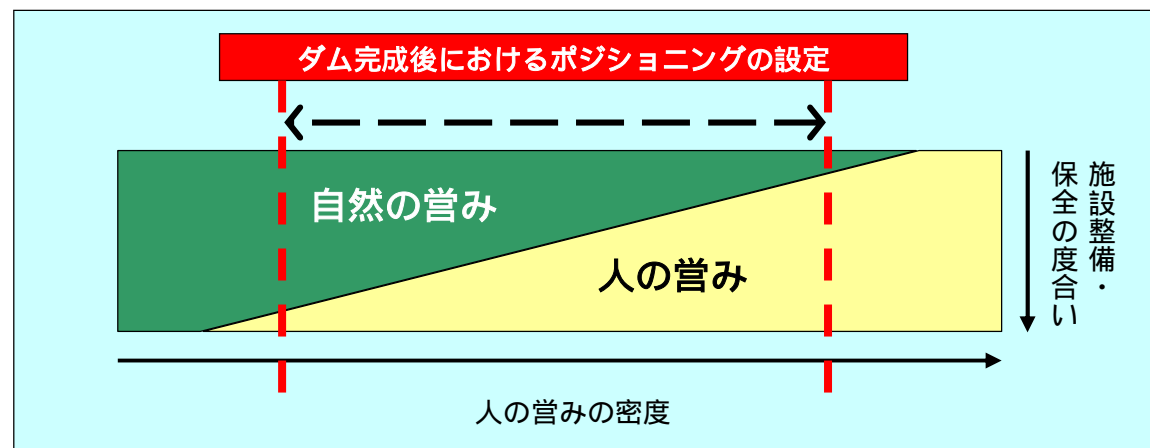
薪炭、材木としての雑木林の活用、山間における棚田の開墾、農業用水確保のための水路開削など、自然と人の営みが交わり、現在の里山環境を育ててきたことがうかがえる。

豊富な動植物の生育・生息が確認されている安威川ダム周辺においては、自然環境保全マスタープランに基づき、自然環境の保全に配慮した空間整備が求められているが、現在の環境を保全していくためには、定期的な維持・管理の実施など人為による適切な管理を必要としている。

そのため、安威川ダム周辺は、ダム完成後においても自然環境の保全を基調として、これまで築いてきた「自然環境」と「人の営み」の望ましい関わり方を定めていく必要がある。



安威川ダム周辺における目指すべき方向の設定イメージ



(2) 基本理念の検討

安威川ダム周辺における活用の観点

資料 - 1 において、安威川ダムの活用ポテンシャルを評価したが、第1回委員会において、安威川ダム周辺の整備や保全の方向性は、現状の条件、既定の計画・事業、今後の展開、といった事項に留意し、特に今後の展開に向けては、以下の3点に留意することを確認した。

多様な動植物の生育・生息環境や自然景観の保全

未来に向けたまちづくりに果たすべき「水と緑の空間」としての役割

地元、隣接地権者、府民、民間事業者の参画・連携のあり方

これらの3点をふまえ、安威川ダム周辺の活用の観点として、「自然環境」、「レクリエーション」、「地域振興と地域間交流」を挙げる。

安威川ダム周辺における活用の観点

自然環境の観点	レクリエーションの観点	地域振興と地域間交流の観点
<ul style="list-style-type: none"> 安威川ダム周辺の自然環境の保全と再生 安威川ダムの周辺資源の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 多彩で活発な活動を支える舞台の創出 伝統文化の伝承や生涯学習・環境学習の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 地域振興や活性化への貢献 協働や交流の場と組織やプログラムの育成

安威川ダム周辺の整備と保全の基本方針

基本理念の検討にあたっては、今後の安威川ダム周辺の整備と保全に関する考え方を明らかにする必要がある。ここでは先に整理した活用の観点を「自然と人の営み」を基軸に模式的にあてはめ、利用イメージ、空間イメージ、自然改変度、施設整備率、集客性、コストを指標に広義な枠組みでの確認を行う。

安威川ダムの空間像

項目	安威川ダム周辺の空間像の設定	
	自然の営み	人の営み
活用の観点のポジショニング	自然環境の観点 レクリエーションの観点 地域振興と地域間交流の観点	
利用イメージ	環境寄与	環境享受
空間イメージ	自然のまま	テーマパーク
自然改変度	小	大
施設整備率	小	大
集客性	小	大
コスト(整備・維持)	小	大

<安威川ダム周辺の整備と保全の基本方針>

現在の安威川ダム周辺の姿は、「自然の営み」と「人の営み」の中で調和を図りながら育まれてきた。

今後もその調和が、時代の変化に順応しながら保たれるために、安威川ダム周辺の整備と保全における基本方針としては、「既存の自然環境の保全と再生」を基本に「既存の資源を有効に活用」した上で、「ダムやダム湖という新たな空間を活用」した、空間づくりを進めて行くものとする。

(3) 基本理念とその観点

基本理念は安威川ダム及びその周辺において、地域にふさわしい整備や保全を将来に進めていくための基本的な考え方を示すものである。

本計画において策定される基本理念は、安威川ダム周辺の自然特性や社会特性を考慮しながら、人と自然の営みの関わりや、歴史・文化資源、地域が有する景観等が果たす重要な役割や機能を視野に入れながら、望ましい地域の将来像を描くための整備や保全のあり方を以下の視点から示すものである。

自然環境の観点
<p><安威川ダム周辺の自然環境の保全と再生> 安威川ダム周辺は都市近郊に位置するにも関わらず、貴重な自然や多様な環境が残されるが、一方でダム事業の進展により影響を受ける環境も少なくない。 後世に対し良好な自然環境を引き継ぐためにも、積極的な保全と再生が必要である。</p>
<p><安威川ダムの周辺資源の活用> 安威川ダム周辺の環境は、人と自然それぞれの営みにより多様な自然環境に加え、歴史・文化資源、良好な景観などが形成されている。 当該地域においては、人と自然の調和が引き続き保たれるよう、これらの周辺資源を有効に活用することが望まれる。</p>

レクリエーションの観点
<p><多彩で活発な活動を支える舞台の創出> 安威川ダムの完成により新たに水と緑の空間が創出される。この空間は地域住民を含む、広く府民の余暇活動に寄与するような整備が望まれる。 そのためには活動空間を支えるハード面に加え、継続を促すソフト面が重要となる。</p>
<p><伝統文化の伝承や生涯学習・環境学習の展開> 自然環境に恵まれた安威川ダム周辺ではあるが、人口減の進行から地域文化や慣習の衰退が課題となる。 一方、市民の環境や美しさ、文化に対する意識の高まりの中、自然環境や伝統文化を教材とした学習の場の提供により、地域のオリジナリティを確保することが重要である。</p>

地域振興と地域間交流の観点
<p><地域振興や活性化への貢献> 安威川ダム周辺では、茨木市全体と比較すると第一次産業の比率が高く、人口の減少が顕在化している。 周辺整備の恩恵は地域の活性化にも向けられるべきであり、地域振興への寄与が望まれる。</p>
<p><協働や交流の場と組織やプログラムの育成> 安威川ダム周辺では放置された棚田や里山が散見される。一方、森林整備や里山保全などの市民活動も展開されている。 住民の高齢化等が進む中、協働や交流を支えるシステムの育成が必要となる。</p>

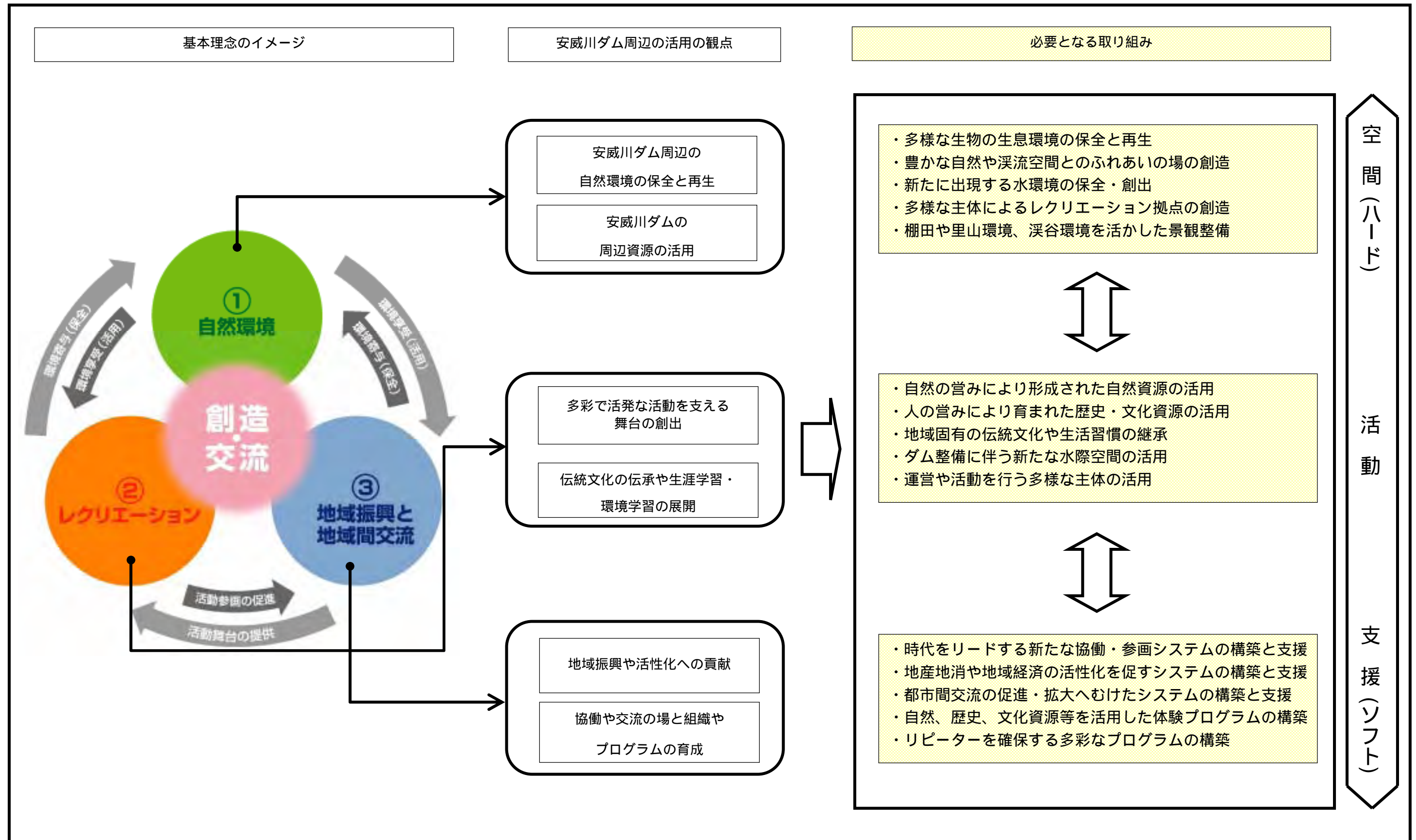
これらの活用の観点については、それぞれが明確に区分されるものではなく、以下のようにそれぞれが補完しあって、地域にふさわしい整備と保全のあり方を示すものである。

基本理念のイメージ



(4) 基本理念の実現に向けた取り組み

先に検討を行った基本理念と、その活用の観点から、必要となる取り組みについて整理する。



2. 安威川ダム周辺の空間の性格設定

安威川ダム周辺のエリア構成、活用ポテンシャルの評価及び基本理念を見据えた上で、場所毎の現況を考慮し、それぞれの空間の持つ性格の設定を行う。設定にあたっては、現況条件を考慮した保全と利用の考え方から「重視すべき空間整備」と「望まれる空間利用」を整理し、以下のように分類する。

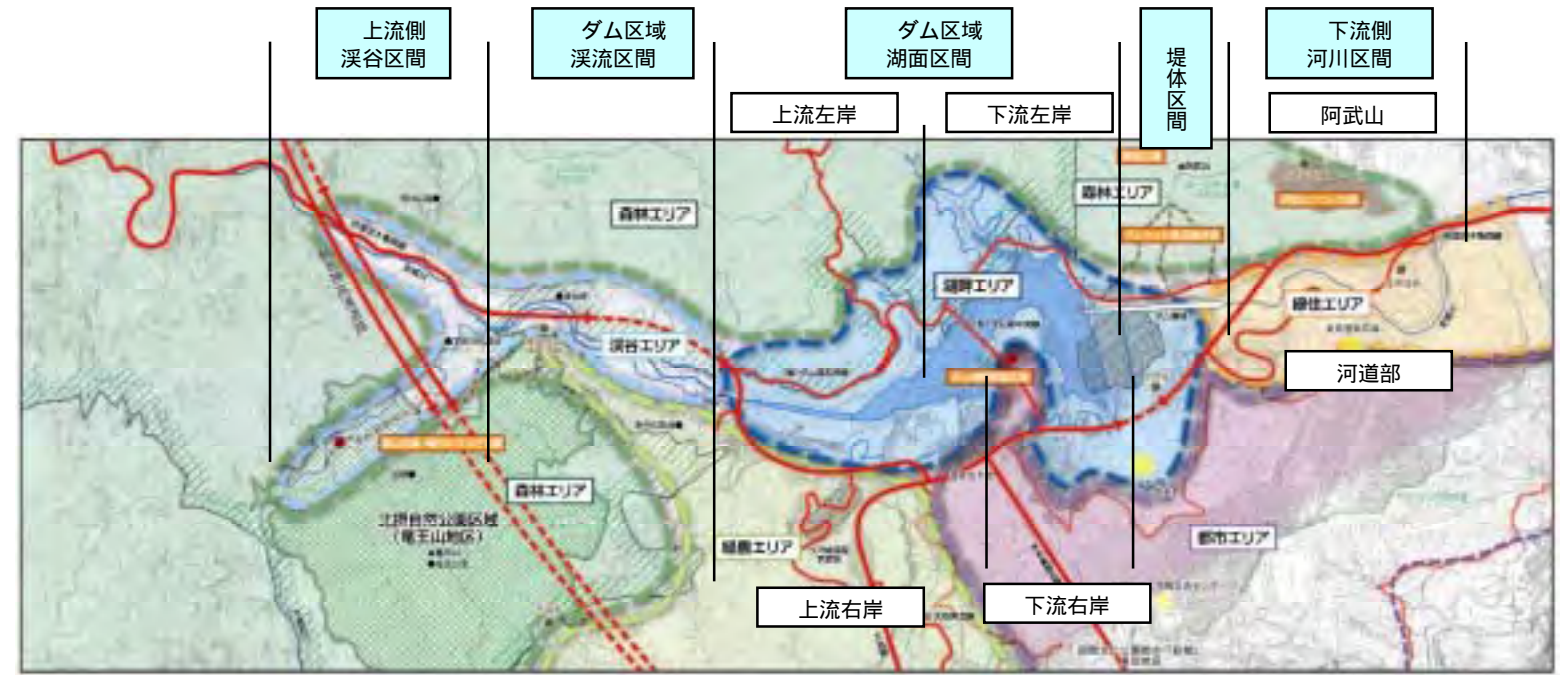
空間整備のパターン

- ・現状保全.....現況条件を自然環境保全の目的以外の改変を極力伴わないで保全する。
- ・付加保全.....現況条件を活かし、空間利用の向上を図るための付加価値を施して保全する。
- ・創出保全.....現況地形を改変或いは改変された部分を、再生や空間利用の向上のために整備を施し保全する。

空間利用のパターン

- ・制限利用.....自然環境保全や伝統文化・地域文化・慣習のため以外の積極的な利用を制限する。
- ・山林利用.....山林空間の環境を利用・享受する。
- ・水辺利用.....ダム湖を含む水辺空間の環境を利用・享受する。
- ・平面利用.....ダム事業により新たに創出した平坦地を利用する。

ここでは、安威川ダム周辺のエリア構成を基に資料1のp.11の「現況条件図」に従って分類すると、右図の様に5区間9区分で表される。この区分にしたがって、前述の「空間整備のパターン」及び「空間利用のパターン」を分析し、空間の性格設定を行う。

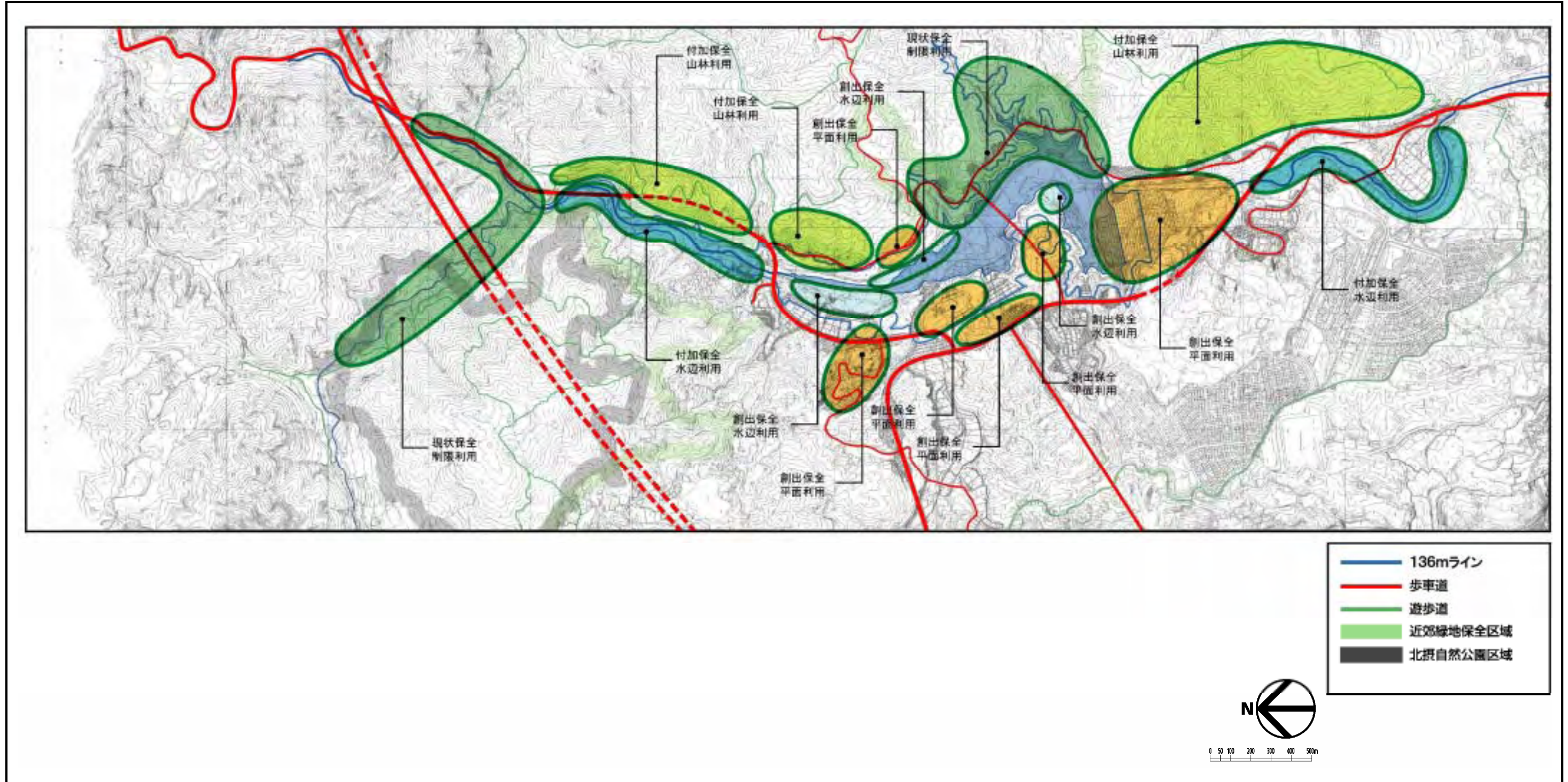


河川特性上の区分 〈エリア構成〉	現況条件	保全と利用の考え方	重視される 空間整備	望まれる 空間利用	空間の性格設定
上流側渓谷区間 〈渓谷エリア〉	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺は渓谷地形のため、新たな利用地確保や水面へのアクセスは困難 ・府下でも希少なまとまった自然植生が稠密に分布 ・オオサンショウウオ、ヤマセミなどが生息 ・自然歩道沿いに伝統文化体験施設(炭窯)が整備 ・溪流から深山水路(歴史的利水施設)が引かれている ・音羽川渓谷と竜仙の滝が見山十景に選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全を特に重視 ・自然歩道、既存資源の有効活用 ・新たな地形改変を伴う計画や利用方法は極力回避 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全に重点 ・自然歩道や既存資源の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の利用形態以外の利用は極力制限 ・自然歩道沿いの散策、自然観察、環境学習、体験学習等 	現状保全・制限利用 〈渓谷エリア〉 道路沿いは部分的に付加保全を考慮する
ダム区域溪流区間 〈渓谷エリア〉	<ul style="list-style-type: none"> ・河道は良好な溪流環境をなす ・左岸側は急峻な山林となっている ・右岸側は現府道が併走し、背後地は山地と集落 ・川沿いに冠水頻度の低い狭小地が点在する ・まとまった自然植生や溪流等、府下でも希少な自然環境が残る ・湧水、瀬・淵、河畔林等が拠点的に分布し、アジメドジョウやオオサンショウウオなど特徴的な種が生息 ・竜仙峡は見山十選に選定され、周辺はアユ釣りやマス釣りの他、水際利用も多い ・山林には林道が通り、東海自然歩道として利用が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全を重視 ・現状の利用形態は尊重 ・自然歩道、溪流の有効活用 	《溪流沿い》 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全を重視 ・溪流沿いの付加価値の向上 	《溪流沿い》 <ul style="list-style-type: none"> ・現状の利用形態は尊重 ・溪流沿いの散策、水際での活動、自然観察、環境学習等 	《溪流沿い》 付加保全・水辺利用 〈渓谷エリア〉
			《自然歩道沿い》 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全を重視 ・既存自然歩道の付加価値の向上 	《自然歩道沿い》 <ul style="list-style-type: none"> ・自然歩道の散策、風景探勝 ・自然観察、環境学習等 	《自然歩道沿い》 付加保全・山林利用 〈渓谷エリア〉
ダム区域湖面区間 上流左岸 〈湖畔エリア〉	<ul style="list-style-type: none"> ・背後地の地形は急峻ではあるが林道(東海自然歩道)が通じる ・水際から河川区域外にかけて、段丘上に棚田跡地や棚田・溜池が残される。 ・左岸道路沿いに、冠水の影響を受けないゴルフ練習場跡地が残される ・溜池沿いに抽水性の植物やトンボ類等の種が生息する ・既存橋(登龍橋)により右岸側との往来が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全を重視 ・棚田や溜池を良好に保全 ・湖畔の有効利用 ・地形改変地の再生と有効利用 	《湖畔》 <ul style="list-style-type: none"> ・棚田跡地の景観保全 ・湖畔の平坦地を利用した空間の創出 ・右岸側とのネットワークの形成 	《湖畔》 <ul style="list-style-type: none"> ・水際での自然観察、環境学習等 ・散策、風景探勝 ・水面利用 ・レクリエーション活動 	《湖畔》 創出保全・水辺利用 〈湖畔エリア〉
			《山林地》 <ul style="list-style-type: none"> ・里山の保全による湖畔とのネットワークの確保 ・棚田や溜池空間の保全 	《山林地》 <ul style="list-style-type: none"> ・自然歩道の散策、風景探勝 ・自然観察、環境学習等 	《山林地》 付加保全・山林利用 〈湖畔エリア〉
			《地形改変地》 <ul style="list-style-type: none"> ・左岸側の拠点施設、駐車場 	《地形改変地》 <ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション活動 	《地形改変地》 創出保全・平面利用 〈湖畔エリア〉

河川特性上の区分 <エリア構成>		現況条件	保全と利用の考え方	重視される 空間整備	望まれる 空間利用	空間の性格設定	
ダム区域湖面区間 <湖畔エリア> <都市エリア> <緑農エリア>	上流右岸 <湖畔エリア> <都市エリア> <緑農エリア>	<大岩川以北>	<ul style="list-style-type: none"> 地形改変地の再生と有効利用 湖畔の有効利用 主要道路から湖畔へのアクセス確保 車作集落との連携 	《湖畔》	《湖畔》	《湖畔》 創出保全・水辺利用 <湖畔エリア>	
		<大岩川以南>	<ul style="list-style-type: none"> 地形改変地の再生と有効利用 主要道路からのアクセスの確保 湖畔や大岩川以北とのアクセスの確保 	《背後地》	《背後地》	《背後地》 創出保全・平面利用 <緑農エリア>	
		<大岩川以南>	<ul style="list-style-type: none"> 地形改変地の再生と有効利用 主要道路からのアクセスの確保 湖畔や大岩川以北とのアクセスの確保 	《河川区域等》	《河川区域等》	《河川区域等》 創出保全・平面利用 <湖畔エリア>	
	下流左岸 <湖畔エリア> <森林エリア>	<大岩川以北>	<ul style="list-style-type: none"> 水際からは緩やかな長大法面や自然地を経て造成平地、さらに付替府道に接する造成協力地に至る 造成により大きな法面や平坦地が確保される 河川区域内の平坦地は冠水頻度は低いが、付替府道や水際との高低差を生じている。 造成協力地は民地で、前面の付替府道は大岩線や茨木箕面丘陵線ともつながり、将来的な交通量が見込める 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の保全を特に重視 新たな地形改変を伴う計画や利用方法は極力回避 右岸側から眺望する景観緑地として保全 	《造成協力地》	《造成協力地》	《造成協力地》 創出保全・平面利用 <都市エリア>
		<大岩川以南>	<ul style="list-style-type: none"> 水際から背後地にかけて山林が広がり、地形は急峻 左岸道路が通るが水際や背後地へのアクセスは困難 道路工事以外にはダム事業による地形改変は伴わない 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の再生と創出 周辺景観に調和した既存構造物の工夫 背後地との動線の確保 冠水頻度の低い河川区域内の平坦地を利用した空間の創出 右岸側の拠点施設、駐車場 湖畔との動線の確保 大岩川以北とのネットワークの形成 	《湖畔》	《湖畔》	《湖畔》 創出保全・水辺利用 <湖畔エリア>
		<大岩川以南>	<ul style="list-style-type: none"> 生保半島先端の水際に小規模な平坦地が残されるが、周辺地形は急峻 なため水際沿いの動線確保は困難 河川区域外には平坦地(グラウンド)が残される 湖面道路やダム湖展望広場が計画される 	<ul style="list-style-type: none"> 湖畔の有効利用 背後地との連携 	《背後地》	《背後地》	《背後地》 創出保全・平面利用 <都市エリア>
ダム堤体区間 <湖畔エリア>		<ul style="list-style-type: none"> 堤体等の築造により地形改変が大きく行われる 周辺地形は急峻 ダム直下に造成平地が残される 	<ul style="list-style-type: none"> 地形改変地の再生と有効利用 ダム天端及びダム直下の平坦地を有効利用した整備 ダム施設の見学に配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ダム直下の平坦地を有効利用した整備 ダムの施設見学に配慮した整備 周辺地との歩行者動線の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 散策、風景探勝 ダムを利用した社会学習、体験学習 	創出保全・平面利用 <湖畔エリア>	
下流側河川区間	河道部 <緑住エリア>	<ul style="list-style-type: none"> 洪水吐直下は急峻地形の中で溪流の様相を成すが、ダムの完成により環境変化が予想される 溪流の水際利用も確認される 桑原集落から下流の河道は改修が予定されている 	<ul style="list-style-type: none"> ダム洪水吐下流の溪流区間は、現在の溪流環境を保全 ほ場整備と河道改修の施工区間は、自然環境の保全・再生に努める 川沿い及び集落との動線に配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 溪流環境の保全 溪流の利用のための付加価値を高める整備 集落及び川沿いのネットワークの形成 	<ul style="list-style-type: none"> 水際での自然観察、環境学習 溪流におけるアウトドア活動 川沿いの散策 下流部河川の水際でのレクリエーション活動 	付加保全・水辺利用 <緑住エリア>	
	阿武山 <森林エリア>	<ul style="list-style-type: none"> 植林地を中心とした民有林 武士自然歩道が通っており眺望が期待できることから、左岸道路の整備とあわせて遊歩道の設置が計画される 	<ul style="list-style-type: none"> 良好な植林地環境の保全と利用 自然歩道、既存資源の有効利用 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の山林環境の利用と保全に重点 自然歩道と既存資源の保全 休憩施設を兼ねた眺望箇所の整備による付加価値 阿武山とダム堤体付近をつなぐ歩行者動線を整備 	<ul style="list-style-type: none"> 散策、風景探勝 歴史探訪 森林組合と連携した体験学習 	付加保全・山林利用 <森林エリア>	

ここまでの検討で、先に分類された安威川ダム周辺の9区分は、5種類の「空間の持つ性格」により16箇所に細分された。
 これらをまとめると下図の通りとなる。
 今後、ゾーニングの策定においてはこれらの細分に基づき、整理を行うものとする。

空間特性図



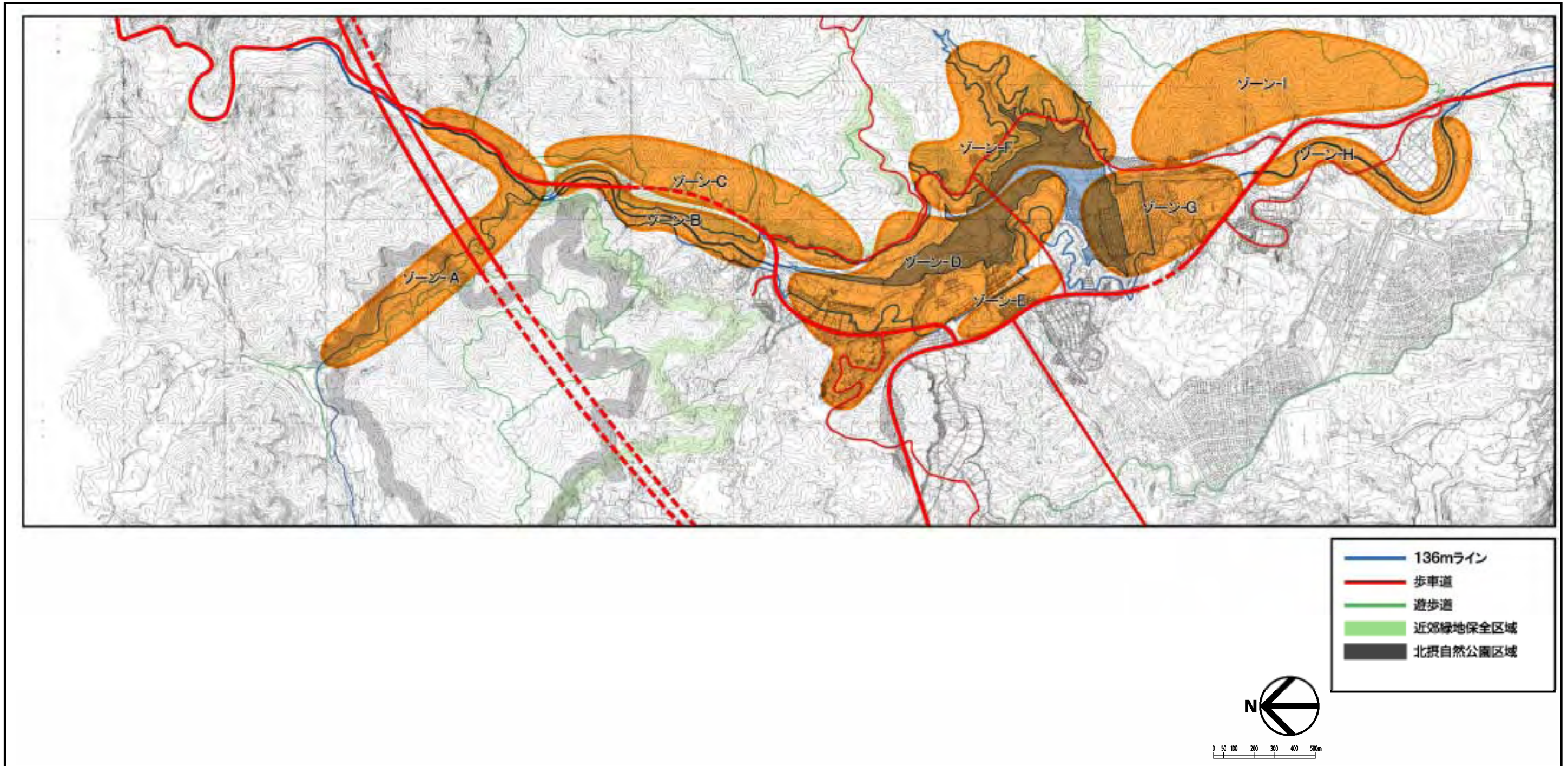
3 . ゾーニング

(1) ゾーン(案)の設定

前項で整理した空間特性図を基に、空間の性格設定が同じものの範囲の集約を図り、ゾーン(案)を設定する。

基本的には、同じ性格を有する空間をまとめたものとなっている。ダム湖畔は設定された空間の性格が細分化されているが、ダム事業により改変された地形が多く、空間整備パターンで集約すると左岸上流の「付加保全」、左岸下流の「現状保全」の2つの範囲以外は、すべて「創出保全」となっており、これをひとつのゾーンとして集約する。

ゾーニング(案)



(2) ゾーン毎の整備・保全及び利用の方向性について

安威川ダム周辺の場所毎の整備や保全に関する考え方のまとめとしてゾーニングを行い、各ゾーンの整備・保全及び利用の方向性を以下に整理する。

ゾーン区分	整備・保全の方向性	利用の方向性	備考
ゾーン-A	<ul style="list-style-type: none"> この渓谷の自然環境を保全することに重点を置く。 既存の自然歩道沿いに、歴史資源（深山水路） 伝統文化体験施設（炭窯）などと連携した小規模な空間整備も考慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境保全活動や伝統文化・地域文化・従来の山林の利用のため以外の積極的な山林空間の利用は基本的に制限する。 自然歩道沿いには、散策、環境学習、体験学習等に活用できる。 里山保全活動の場となりえる。 	北摂自然公園区域 オオサンショウウオ、ヤマセミ 権内水路（深山水路） 炭窯 権内せせらぎ公園（計画）
ゾーン-B	<ul style="list-style-type: none"> 竜仙峡に代表される渓流環境を引続き保全することに重点を置くとともに、渓流沿いの良好な散策空間となるようにする。 小規模な面的整備や渓流に近づけるような工夫をするなど、付加価値を高めれば、空間の用途が広がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁業権が設定されている区間は、これまでどおり渓流釣り場として利用される。 渓流沿いは散策の他、アウトドア活動の場としての利用が可能となる。 	竜仙峡 オオサンショウウオ、アジメドジョウ 安威川上流漁協（渓流釣り） 現府道の利用 渓流沿いの面的な空間
ゾーン-C	<ul style="list-style-type: none"> 山林空間や棚田・溜池空間を良好に保全することを基本とする。 自然歩道（林道）沿いの場所を選び、ダム湖を眺望する箇所を整備すれば、付加価値が上がる。 周辺の里道を整備することにより、左岸道路や湖面との連絡が可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然歩道（林道）沿いは、散策、環境学習、体験学習等の場として活用できる。 里山保全活動の場となりえる。 	キツネノカミソリの群生地 棚田・溜池の環境 左岸道路
ゾーン-D	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境が改変された部分や今後の改変を受ける部分については、早急に再生や創出を進める。 水際は柔らかい草の植生が確保されるように努め、水生生物の生息環境の確保に配慮する。 まとまった造成平地が確保され、利用者のニーズに合わせた整備が可能となる。 ダム湖周辺の拠点施設が必要となれば、このゾーンの冠水しない箇所あるいは冠水頻度が低い平坦地での設置が妥当である。 生保半島はこのゾーンとEゾーンの接点として工夫して整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ダム湖は、水際での利用、水面利用が考えられる。 出水時の避難システムの構築が必要となるが、レクリエーションの場として広く利用できる可能性を有している。 冠水頻度が低い箇所や河川区域外は、拠点施設やサービス施設など高度な利用が可能となる。 	湖面 水際の平坦地 河川区域外の既買収地 コア材採取地 ダム湖畔展望広場 湖面道路
ゾーン-E	<ul style="list-style-type: none"> 民有地で、ダム事業の残土処分のための造成協力地であり、将来は都市的なレクリエーション拠点としての構想がある。 付替府道に接し、かつダム湖畔の景観を構成する主要箇所となるため、周辺環境への影響をできるだけ緩和し、景観に調和した整備や保全となるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 付替府道に面しており、様々な土地利用が考えられる。 就労機会を生む施設立地としての利用が考えられる。 ダム湖に面している箇所は眺望ポイントとしての利用が考えられる。 	彩都東部地区に隣接 新名神からのアクセス 湖面道路
ゾーン-F	<ul style="list-style-type: none"> 湖面へ流入する渓流には良好な自然環境を有しており、現況の保全に重点を置く。 左岸道路を除き、湖面から山地にかけて現況森林が残される箇所であり、景観緑地としての良好な保全に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境保全活動や従来の山林の利用以外の積極的な山林空間の利用は基本的に制限する。 左岸道路に沿って湖面を眺望する散策コース、サイクリングコースとして利用が考えられる。 里山保全活動の場となりえる。 	左岸道路・湖面道路
ゾーン-G	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境が改変される部分については早急に再生や創出を進める。 ダム直下には平坦地が創出され、レクリエーション空間としての整備の他、ダム堤体を含む施設見学に配慮した整備が工夫できる。 ダム直下と天端付近、そこからダム上流との歩行者動線が確保できるような整備を考慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ダム堤体を含む施設を、見学など社会学習、体験学習の場として利用できる。 ダム天端を開放すれば、ダム直下～ダム天端～左右岸～ダム上流とつながる散策ルートとしての利用が可能である。 	ダム堤体 大門寺 左岸道路
ゾーン-H	<ul style="list-style-type: none"> ダム直下の洪水吐からつながる河川については、現在の渓流環境の保全に努めると共に、渓流利用を継続できるように配慮する。 下流部については、ほ場整備や河道改修と合わせた自然環境の創造や保全、川沿い及び集落やさらに下流河川とのネットワークの形成に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ダム直下の渓流は、アウトドア活動の場としての利用が可能となる。 下流部の河川沿いは、安威川下流部からダムへつながる散策ルートとしての利用が可能である。 河川の水際での自然観察、環境学習に利用できる 	ほ場区域 桑原遺跡
ゾーン-I	<ul style="list-style-type: none"> 良好な植林地としての現在の山林環境の利用と保全に重点を置く。 阿武山古墳や武士自然歩道（明智街道）といった既存の歴史資源を保全し、休憩施設を兼ねた眺望箇所を整備し、付加価値を高める。 阿武山とダム堤体付近をつなぐ歩行者動線を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地からダム区域を眺望できる散策ルートとして利用できる。 阿武山古墳から武士自然歩道（明智街道）を抜ける歴史探訪ルートとして利用できる。 森林組合と連携した体験学習の場となりえる。 	武士自然歩道・阿武山古墳 ダムサイト周辺遊歩道 阿武山つつじの森整備（計画）